

1 年生が回答した学校評価アンケートでは、多くの生徒が「学校生活は充実している」「充実しているほうだ」と回答しており、学校生活に対して前向きな気持ちをもって過ごしている様子がうかがえました。さらに、「気軽に話せる友人がいる」「よく話を聞いてくれる先生がいる」という回答も多く、生徒同士や教員との良好な人間関係が学校生活の満足度につながっていると考えられます。

学習面では、GIGA 端末(タブレット)の活用や、ペア・グループ活動などの協働的な学習について、「役立っている」「まあ役立っている」と回答した生徒が多く見られました。また、「授業の中で対話したりつながりを感じたりする場面がある」「学ぶ楽しさを実感できている」と感じている生徒も多く、生徒同士が関わりながら学ぶ授業が定着しつつあることがうかがえます。

2年生が回答した学校評価アンケートでは、生活習慣について、「朝食を食べている」「おおむね食べている」と回答した生徒が多く、家庭での基本的な生活習慣は概ね定着していることがわかりました。一方で、「朝起きにくい」「起きにくいときがある」と感じている生徒も少なくなく、睡眠時間の確保や規則正しい生活リズムについて継続的な意識づけが必要であると考えられます。

自己理解や自己肯定感に関する項目では、「自分の良さに気づいている」「自分を大切にしている」と回答した生徒が多く見られました。しかし、一部には自信をもちにくいと感じている生徒もいることから、一人ひとりの良さや成長を認め合う機会を大切にしながら、自己肯定感の向上につながる取組を継続していきます。

3年生が回答した学校評価アンケートでは、人との関わりについて、「人の気持ちを考えた言動ができている」「他者とのつながりや関わりを大切にできている」と感じている生徒が多く、日頃から仲間との協力や思いやりを意識して生活している様子が見られました。一方で、自分の考えや気持ちを十分に表現できていない生徒も見受けられるため、今後も安心して対話できる学級づくりを進めていきたいと考えています。

家庭学習については、「1 時間未満」から「2 時間以上」まで幅広く分布しており、生徒によって学習習慣に差が見られました。特に数学を中心として学習している生徒が多く、教科による学習時間の偏りも見受けられます。今後は、計画的に学習に取り組む力や、自ら学ぶ習慣の育成をさらに進めていく必要があると考えています。

総括

今回のアンケート結果から、生徒の多くが学校生活に充実感をもち、友人や教員との関係の中で安心して生活していることが分かりました。また、協働的な学習活動を通して学ぶ楽しさを感じている生徒も多く、本校の教育活動が一定の成果を上げていることがうかがえます。一方で、家庭学習習慣の定着、生活リズムの改善、自己肯定感の向上などについては引き続き課題も見られます。今後も学校と家庭が連携しながら、生徒一人ひとりの成長を支えてまいります。

今年度より取り組んでいる、昼休み後の 10 分間学習については、「取り組めている」「おおむね取り組めている」と回答した生徒が多く見られました。このことから、多くの生徒が短時間で気持ちを切り替え、午後の学習に向けて落ち着いて取り組む習慣を身に付けていることがうかがえます。

10 分間という限られた時間ではありますが、基礎的な学習内容の定着や、自ら学習に向かう姿勢を育てるうえで重要な時間となっています。また、昼休み後に学習へ円滑に移行するための「学びのスイッチ」としての役割も果たしていると考えられます。

一方で、「あまり取り組めていない」「取り組めていない」と回答した生徒も一定数見られました。その背景としては、学習内容への意欲の差や、集中力の維持、学習の目的意識が十分に持てていないことなどが考えられます。特に中学生の時期は、学習内容の難化や部活動等との両立による疲労感から、継続的な学習習慣に個人差が生じやすい傾向があります。

今後は、10 分間学習の意義を生徒自身が実感できるよう内容や方法を工夫するとともに、「短い時間でも集中して取り組むことが学力向上につながる」という意識を育てていきたいと考えています。また、一人ひとりが達成感を感じながら取り組める活動を充実させることで、自ら学ぶ姿勢の定着につなげていきます。